

南町田駅周辺地区 拠点整備基本方針（案）説明会 開催概要・意見交換要旨

日 時	2015年1月24日 15:00~17:05
場 所	リバブルスクエア南町田 2階ホール
出席者	参加者数:206名 鶴間一丁目:68名 鶴間二丁目:41名 鶴間三丁目:27名 鶴間(丁目なし):45名 その他市内:4名 市外など(横浜市・大和市など):21名 【町田市】 都市づくり部都市政策課 : 池ノ内次長・田中担当課長・荒木担当係長 辻野担当係長・荒井主事 政策経営部未来づくり研究所:石坂政策研究担当課長 【東京急行電鉄株式会社】 都市開発事業本部:大野課長・田中主査・井上課長補佐・石垣氏
次第	○開会 ・挨拶 ・出席者紹介 ○方針案のご説明(都市政策課) ○質疑、意見交換 ○閉会
配布資料	・次第 ・南町田駅周辺地区拠点整備基本方針(案) 概要 ・ご意見記入用紙

質疑、
意見交換
の要旨

- ・南地域は災害時に道路が寸断された場合は孤立し、ヘリコプターが非常時輸送の主要手段となる。災害時のヘリポートとして指定のある多目的広場に住宅を配置することは、防災の観点から反対する。
⇒（市）説明したとおり、地区内のいずれかの場所でヘリポート機能を確保する考えである。
- ・ヘリポートは、スポーツ広場で取れるのではないか。
- ・道路廃道など、従前に比べて不便になる点は十分に説明したほうがよい。廃道によって駅前の道路の混雑が深刻になるのではないか。
- ・この地区は、公共施設が不足し、洪水時の避難場所も確保できていない。もっとも要望があるのは図書館であり、住み替え住宅下層ではなく別棟でつくるのがよい。市は南地域のもっと投資するべきだ。
- ・鶴間公園は南地域内で唯一のまとまった自然地であり、野鳥の生息なども見られる。大和市側で開発が行われてから鴨の飛来がなくなったこともあり、自然学習の場として、いまの公園環境を死守したい。生涯学習講座の場所として利用していた東京女学館大学が廃校になると、南地域で講座を行えるような施設がなくなってしまう。
- ・意見募集期間が1ヶ月では短いと思う。この案を昨年12月に知ったばかりであり、非常に尚早な印象を受ける。
- ・公園には静けさが第一である。商業と公園はそもそも別物であり、別のコンセプトで考えるべきである。
⇒（市）駅前の公園として、たくさんの人でにぎわう公園にしたいと考えている。
⇒ 市と住民に大きな価値観の相違がある。
- ・東急とどのような協定を結んだのかを公開するべきだ。市は東急と何を約束したのか。
⇒（市）副次核のにぎわいに資するまちづくりを協働で進めようという趣旨の協定であり、具体的に事業項目を約束しあったものではない。
⇒（東急）社としてグランベリーモールの次の土地利用を様々検討してきたが、現段階では、商業施設としてのリニューアルを町田市と協力して進めていこうとしているところである。
- ・世界にも珍しいというその環境を失くそうとしているように見える。公園は商業と住宅地の緩衝帯として機能してきた。公共サービスとして残すべきものは何か問いたい。
- ・調整池を増設するだけでは、豪雨時の冠水被害を防ぐことは出来ないだろう。
- ・公園の防犯性を憂慮するなら、交番を設置すればよいのではないか。

- ・ すぐかけ台の変電所問題の際、東急の社長名の文書で「二度と住民を欺くようなことはしない」と言ったのに、同じようなことをしているように見える。
- ・ 鶴間公園は境川の河岸段丘地形が唯一残っているところであり、人工樹林にしてしまっただけは台無しだ。
- ・ 住み替え住宅を東急が独占的に整備することに違和感をもつ。
⇒ (市) 東急所有の現ケースデンキの街区を学校用地として確保し、東急と土地交換することを考えている。

- ・ 本案に賛成する。交通環境や公共施設などの面でもっと便利になるだろう。鶴間公園は夜暗く、いまのままだと女性たちにとっては不安があると思う。

- ・ 本案にはワクワクする気持ちを持った。守るべきところは守るとしても、安全安心や防災のために一定程度は利便性を譲る点も必要なのではないかと思う。いまの環境は決して防犯性が高いとは言えない。
- ・ 東急が撤退して、集合住宅になってしまうようなことだけは避けたい。

- ・ 検討プロセスを工夫してほしい。関心のある人に幅広く呼びかけて、時間をかけて検討することが大切だ。まちづくり構想がいきなり出てきた印象がある。
⇒ (市) これまで整備計画検討会を母体にして検討してきたが、今後より具体的な検討に入る際には、検討組織のあり方についても合わせて検討する。

- ・ 小学生の子どもがいるが、駅北側から鶴間公園脇を通過して鶴間小に通わせるのが心配で、南つくし野小に学区変えをした。子どもの親としては、明るい公園に賛成だ。
- ・ 声の多く挙がっている「自然を活かす」ことを念頭にしつつ、新しいまちづくり計画を進めていってほしい。

- ・ 本計画完成の2020年頃に、南町田の人口をどのくらい増やそうとしているのかが分からない。
⇒ (市) 推計上は2020年以降に人口減少期に入るとされており、2040年には総人口の2割減と予測されている。人口減少期の社会構造は未体験でまったく予測不能だが、拠点整備でテコ入れすることが有用だと考えている。
- ・ ゆりの木通りでは、国道16号に向かって車のスピードが非常に速く、危ない。新しい商業施設ができると、道路が今よりも車で混雑することが予想され、道路・交通計画をしっかりと立ててもらいたい。サイクルロードなどの視点も取り入れられたい。

- ・ 住み替え住宅の位置は、公園に南面するといった、東急がもっとも売りやすい住宅の適地として決められているように思う。
- ・ 現状で東急所有地であるケースデンキの街区に、住み替え住宅を整備すればよいと思

う。

(東急電鉄：大野課長)

- ・ 鉄道事業者として、また、沿線開発を行ってきた開発事業者として、郊外の街を持続的に維持していく責務があると考えている。
- ・ 本日は、長くお住まいの方々からは「いまの環境を守りたい」、若い世代の方々からは「街の将来が心配、20～30年後を見据えたまちづくりをしてほしい」という声が多かったと理解している。
- ・ 高齢化社会、人口減少社会を迎え、郊外の良好な住宅地を持続させていくには、現在の住民の皆さまが安心して住み続けられるまちづくりと、新しい住民を呼び込んでいくために、世代バランスを維持し、人口を減少させない施策など、まちの新しい魅力を創り出していくまちづくり、この両方を同時に行っていくことが必要であると考え

—以上—